

◆◆◆ 前線による大雨について ―平成 22 年(2010 年)10 月 18 日～10 月 21 日―

10 月 18 日から 21 日にかけて、前線が奄美地方に停滞し、南シナ海にあった台風第 13 号の東側で非常に湿った空気が前線付近に流れ込んだため、大気の状態が不安定となり、奄美地方では、所により期間降水量が 800 ミリを超える記録的な大雨となった。

24 時間降水量では、鹿児島県奄美市名瀬（ナゼ）で 20 日 23 時 20 分までに 648.0 ミリとなり、昭和 51 年（1976 年）の観測開始以来最大を記録した。また、20 日の日降水量は、名瀬（ナゼ）で 622.0 ミリとなり、明治 36 年(1903 年)5 月 29 日に観測した 547.1 ミリを超え、明治 29 年(1896 年)の観測開始以来最大を記録した。なお、解析雨量※では、20 日 0 時から 24 時までの 24 時間に 700 ミリを超える雨量となった。

1 時間降水量では、鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋（コニヤ）で 20 日 13 時 05 分までに 89.5 ミリの猛烈な雨が、鹿児島県奄美市名瀬（ナゼ）で 20 日 16 時 41 分までに 78.5 ミリの非常に激しい雨が降った。また、解析雨量では、20 日 11 時 30 分までと 13 時までのそれぞれ 1 時間に奄美市付近と大和村付近で、また、20 日 15 時までの 1 時間に奄美市付近と瀬戸内町付近で、いずれも 120 ミリ以上の猛烈な雨となった。

この大雨による死者は、鹿児島県奄美市で 2 名、鹿児島県大島郡龍郷町で 1 名となった。また、奄美地方では、家屋の浸水や土砂災害が多数発生した。その他、停電、断水が発生し、交通機関にも大きな影響が出た。（被害の状況は内閣府などによる（平成 22 年 10 月 24 日 15 時 30 分現在）。

※ 解析雨量とは、気象レーダーにより観測された雨の強さを、アメダス等の雨量計により観測された雨量を用いて解析・補正したもの。

（気象庁ホームページから）